

# 庄内砂丘クロマツ林内へ早期に混交可能な広葉樹

山形県森林研究研修センター

## 研究のねらい

庄内砂丘クロマツ林は、松くい虫被害により防災機能の低下が懸念されており、松くい虫に強く防災機能の高い森林を造成するためには、多様な樹種から構成される、クロマツと広葉樹との混交林へ誘導することが望ましい。しかし、クロマツ林内への植栽に適した広葉樹が解明されていないことから、植栽試験を行い、多様な樹種で構成される混交林へ誘導可能な広葉樹を選定する。

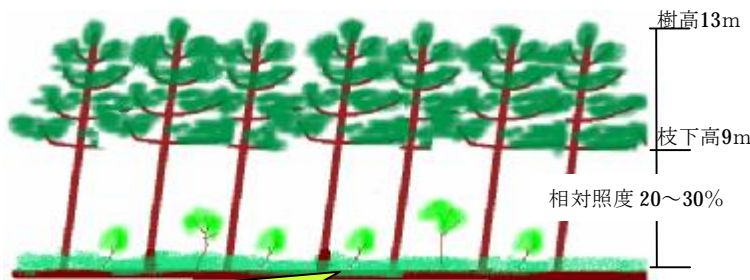
## 研究の成果

庄内砂丘クロマツ林内の試験地にクロマツと22種の広葉樹を植栽し、植栽後5年間の生存率、樹高成長量、根元直径成長量を調査した結果、庄内砂丘クロマツ林内に植栽するのに最適な広葉樹は、ケヤキ、エノキ、エゴノキ、アカメガシワであった。

このことから、樹高が高くなるケヤキ及びエノキはクロマツとともに高木層を構成する樹種として、比較的樹高の低いエゴノキ及びアカメガシワは亜高木層及び低木層を構成する樹種として植栽することが適当と考えられる。

表-1 庄内砂丘クロマツ林内に植栽した広葉樹の5年間の結果

樹種	生存率 %	樹高成長量 cm	根元直径成長量 mm	林内適性	樹種特性	
					樹高	冬季の枝数
ケヤキ	96.4	174.2	18.6	最適	低木	少
エノキ	89.7	173.4	23.9	最適		
エゴノキ	86.2	147.9	23.4	最適		
アカメガシワ	82.1	272.7	33.1	最適		
23種平均	74.2	117.1	15.2			



クロマツ、トベラ、カシワ、モチノキ、シロダモ、コナラ、タブノキ、ケヤキ、ネムノキ、ハルニレ、ミズナラ、エゾエノキ、シナノキ、オオヤマザクラ、ハリギリ、イタヤカエデ、エノキ、ヤマグワ、ヤブツバキ、アカメガシワ、エゴノキ、クリ、カスミザクラ 計23種

図-1 試験地の状況と植栽樹種



写真-1 成長の良いケヤキ